

# 特技懇の目的

特許庁技術懇話会 代表委員 小柳 健悟

## 巻・頭・言



特技懇の代表委員に選出され、あらためて会則を読み返してみました。第2条の目的規定には「親睦」、「研さん」、「地位の向上」、「特許行政に寄与し科学技術の振興をはかる」とあります。そこで、これらの目的をキーワードに今年度の特技懇の活動方針の概略を述べさせていただきます。

第一に、「親睦」です。

その最大のものが懇親会です。正会員、特別会員はもちろん、多くの関係者の方々にお集まりいただき、旧交を温め、ご指導をいただき、それぞれに親睦を深める絶好の機会です。加えて、今年度入庁した新人を皆様にご紹介する場でもあります。近時、七月の開催が恒例化しておりましたが、今年度は、東日本大震災に伴う東京電力管内の電力不足等に配慮して開催を秋に延期させていただきます。かかる事情につきご高配を賜りますとともに、多くの方々にご参加をお願い申し上げます。

第二に、「研さん」です。

これまで特技懇誌上での研究発表や技術・デザインに関する情報提供を鋭意行って参りました。今年度は、これらに加え、新たに日米PPHを対象に審査の比較検討を行う準備をしております。その趣旨は、審査結果の国際的な信頼性、とりわけ日本の審査競争力を確保するための手がかりを得ることにあります。進歩性判断の手法や引用文献の選択に関しあらたな切り口を見出すことができばと期待しております。仮に、日米の審査結果に何らかの相違点があれば、その原因を類型化し、その傾向を統計的に分析することまでが射程に含まれます。これらの成果は、特技懇の会員による報告として、特技懇誌上で発表する予定です。

また、会員の皆様の関心が高いテーマを選定し、各種セミナーも開催する予定です。

第三に、「地位の向上」です。

特技懇の活動と地位の向上の直接的な因果関係を明らかにすることは易しいことではありません。しかし、少なくとも過去から現在、そして未来に至る特技懇の活動全体がこれに資するものと考えます。

第四に、「特許行政に寄与し科学技術の振興をはかる」です。

先の大震災で被災した日本の部品メーカーの電子部品、素材等の供給減のインパクトが世界の工場に波及したとの報道が示すとおり、科学技術は国境を越えた存在になっています。他方で、部品の供給先を日本から他国に変更する動きも報じられており、その行方が気にかかるところです。もっとも、ユーザーの最終的な選択は、そのクオリティに依存すると言っても過言ではないでしょう。

翻って、いまや審査も将来的なボーダレス化に向かいつつ、そのクオリティがより吟味される時代に入った感があります。確かに、特技懇の活動が、直接特許行政に結びつくわけではありません。しかし、会員各々において、優れた技術思想が迅速・的確・公平に権利化されるよう日々の業務を着実に進めていくことは、ユーザーの最終的な選択に肯定的な影響を与えることは否定できません。したがって、クオリティの高い業務の積み重ねが結局は「特許行政に寄与し科学技術の振興をはかる」ことにつながるといえるでしょう。

最後に、これらの目的は、究極的には会員の皆様のためにあるのですから、皆様のご意見、ご要望に真摯に耳を傾け、今年度の活動を進めて参ります。どうか皆様のご協力をお願い申し上げます。

東日本大震災により亡くなられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さま、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。そして一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。